

報告事項 ア

平成24年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」  
について

平成24年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」について、別紙のとおり報告します。

平成25年12月20日

鳥取県教育委員会教育長 横 濱 純 一

# 平成24年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」 について

平成25年12月20日  
小中学校課、高等学校課  
特別支援教育課  
いじめ・不登校総合対策センター

## 1 鳥取県の調査結果の概要

### (1) 小・中・高校（公立のみ）の暴力行為の発生件数

- 前年度に比べて発生件数は中学校で大幅に減少したが、小学校、高校では増加
- 県全体の発生件数も前年度に比べて増加
- 1,000人当たりの発生件数も前年度より増加

#### 【概要】

##### <小学校>

- ・発生件数は、37件で、前年度（11件）より大幅に増加。

##### <中学校>

- ・発生件数は、78件で、前年度（106件）より大幅に減少。

##### <高校>

- ・発生件数は、64件で、前年度（56件）より増加。

○小・中・高の児童生徒1,000人当たりの発生件数は3.0件で、全国（4.2件）を下回る。

○暴力行為の区分の内、「対教師暴力」の発生件数は25件で、前年度（18件）より増加。

#### 【鳥取県の暴力行為の発生件数の推移】

暴力行為		14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	前年比増減
鳥取県	小	3	4	13	4	13	6	3	13	13	11	37	26
	中	118	151	142	97	76	65	90	123	115	106	78	-28
	高	40	33	63	38	61	50	59	61	68	56	64	8
	計	161	188	218	139	150	121	152	197	196	173	179	6
	発生件数/千人	2.2	2.6	3.1	2.0	2.2	1.9	2.3	3.1	3.1	2.8	3.0	0.2
全国	発生件数/千人	2.5	2.7	2.6	2.6	3.1	3.7	4.2	4.3	4.6	4.2	4.2	0

※全国の発生件数/千人は公立のみの数値

## (2) 小・中・高・特別支援学校（公立のみ）のいじめの認知件数

○前年度に比べて認知件数は高校で減少したが、小学校、中学校、特別支援学校では大幅に増加

○県全体の認知件数、1,000人当たりの認知件数も前年度より増加

### 【概要】

#### <小学校>

・認知件数は、131件で、前年度（21件）より大幅に増加。

#### <中学校>

・認知件数は、144件で、前年度（29件）より大幅に増加。

#### <高校>

・認知件数は、17件で、前年度（21件）より減少。

#### <特別支援学校>

・認知件数は、10件で、前年度（2件）より増加。

○小・中・高・特別支援学校の児童生徒1,000人当たりの認知件数は5.0件で、全国（14.3件）を大きく下回る。

○小、中学校でいじめの認知件数が大幅に増加したのは、平成24年8月に文部科学省による「いじめ問題に関する緊急調査」が行われるなど、教員、保護者ともにいじめに対する感度が高まり、より積極的にいじめと認知し、早めに対応しようとする姿勢が強まったことが原因と考えられる。また、アンケート等の様式・方法の工夫が図られたこと、教育委員会における管下の学校への指導が徹底されたことなども原因に挙げられる。

○いじめの認知件数が大幅に増加したが、早期発見・早期対応ができた事案が多くなり、いじめが解消できた事案も増加した。

○いじめの態様の中では、「冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」が最も多く、次いで「軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする」「仲間はずれ、集団による無視をされる」が多くなっている。

### 【鳥取県のいじめの認知件数の推移】

いじめ		14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	前年比増減
鳥取県	小	7	13	10	4	35	31	19	11	13	21	131	110
	中	30	57	35	30	74	35	38	25	35	29	144	115
	高	3	20	12	6	17	26	5	7	5	21	17	-4
	特	0	0	0	0	0	3	2	10	2	2	10	8
	計	40	90	57	40	126	95	64	53	55	73	302	229
	発生件数/千人	0.5	1.3	0.8	0.6	1.8	1.8	1.0	1.2	1.0	1.2	5.0	3.8

### 【全国のいじめの認知件数の推移】

いじめ		14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	前年比増減
全国 公立 のみ	小	5,659	6,051	5,551	5,087	60,380	48,526	40,545	34,494	35,603	32,705	116,258	83,553
	中	14,562	15,159	13,915	12,794	49,443	42,122	35,757	31,162	31,424	29,636	60,931	31,295
	高	1,906	2,070	2,121	2,191	9,166	6,388	5,043	4,307	5,127	4,648	13,009	8,361
	特	78	71	84	71	371	334	307	256	342	333	805	472
	計	22,205	23,351	21,671	20,143	119,360	97,370	81,652	70,219	72,496	67,322	191,003	123,681
	発生件数 /千人	1.6	1.7	1.6	1.5	8.7	7.1	6.0	5.1	5.5	5.0	14.3	9.3

※H18年度より全国の発生件数/千人は国私立、中等教育学校を含む値

### (3) 小・中学校（国立、私立含む）の不登校

- 前年度に比べて小学校の不登校児童数は増加、中学校の不登校生徒数は大幅に減少
- 出現率は、小学校は全国平均を上回り、中学校は全国平均を下回った
- 再登校ができるようになった児童生徒の割合は、小・中学校ともに全国を大きく上回り、半数近くの児童生徒が復帰

#### 【概要】

##### <小学校>

- ・不登校児童数は119人で、前年度（109人）に比べて増加（+10人）
- ・不登校児童の割合は0.37%で全国（0.31%）を上回った。

##### <中学校>

- ・不登校生徒数は379人で、前年度（477人）に比べて大幅に減少（-98人）
- ・不登校生徒の割合は2.31%で全国（2.56%）を下回った。

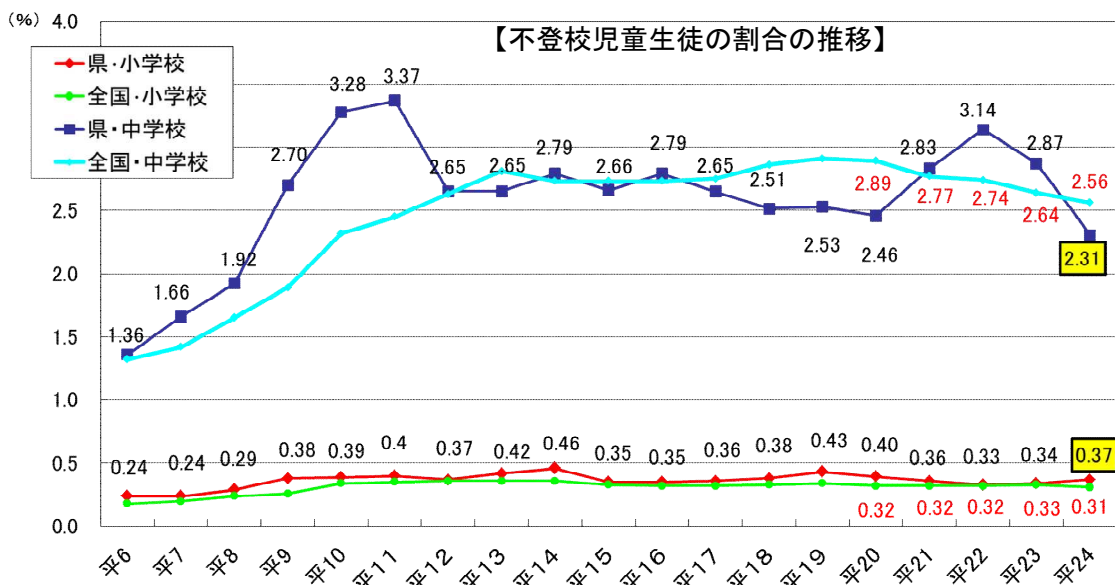
#### 【再登校できるようになった児童生徒の割合】（公立のみ）

##### <小学校>

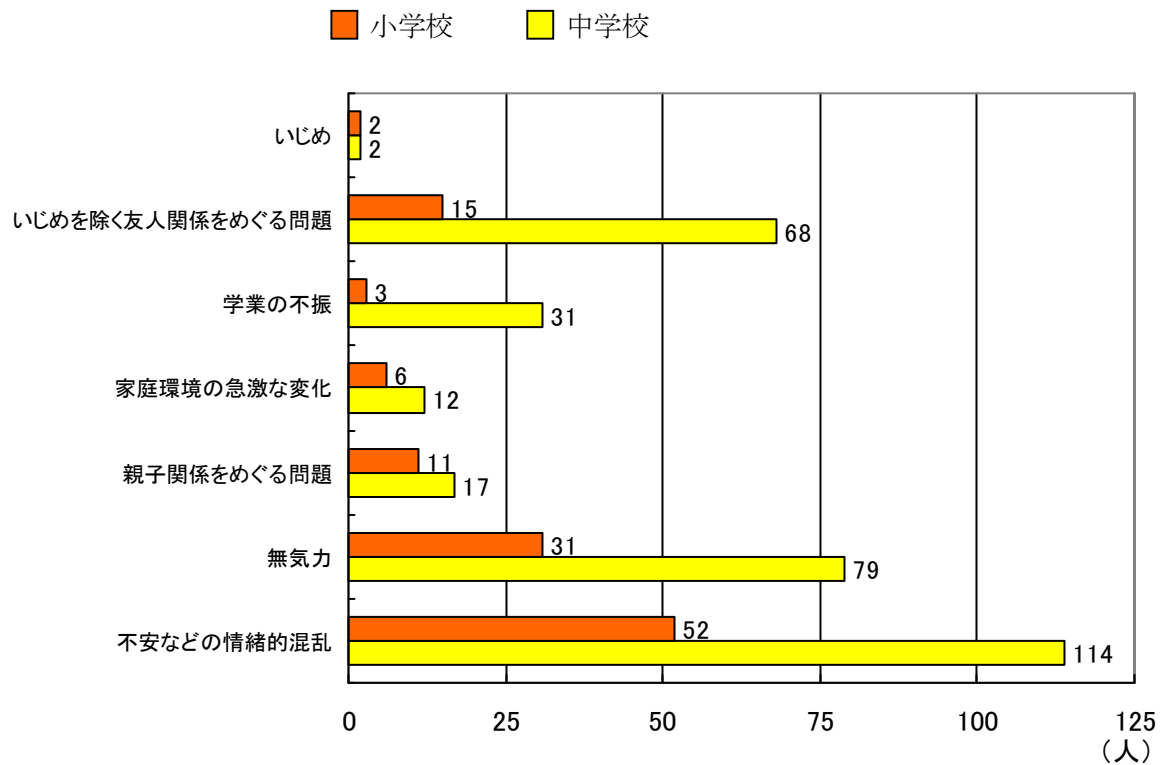
- ・46.6%で全国（33.8%）を大きく上回った。

##### <中学校>

- ・45.4%で全国（29.4%）を大きく上回った。



【主な不登校のきっかけ】（公立のみ、複数回答あり）



【分析】（公立のみ）

- 中学1年での不登校生徒数は82名で過去4年で最低であるとともに（H21年138名、H22年117名、H23年95名）、新たに不登校になった生徒の数も50名でH21年から半減している（H21年100名、H22年85名、H23年68名）。  
中1ギャップを解消するための小中連携の成果が表れていると考えられる。

- 不登校のきっかけとして、小学校、中学校ともに「不安などの情緒的混乱」、「無気力」という本人に関わる問題が多く、「（いじめを除く）友人関係をめぐり問題」が続いている。

問題行動(暴力行為・いじめ)等の状況に関する集計結果

資料

小中学校課  
高等学校課  
特別支援教育課  
(件)

1 暴力行為

(1) 鳥取県の暴力行為の発生件数の推移

暴力行為		13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	前年比増減
鳥取県 公立のみ	小	4	3	4	13	4	13	6	3	13	13	11	37	26
	中	174	118	151	142	97	76	65	90	123	115	106	78	-28
	高	58	40	33	63	38	61	50	59	61	68	56	64	8
	計	236	161	188	218	139	150	121	152	197	196	173	179	6
	発生件数 /千人	3.1	2.2	2.6	3.1	2.0	2.2	1.9	2.3	3.1	3.1	2.8	3.0	0.2
全国 公立のみ	小	1,630	1,393	1,777	2,100	2,176	3,755	5,095	6,367	7,043	6,817	7,075	8,207	1,132
	中	29,388	26,295	27,414	25,984	25,796	29,476	35,649	41,509	42,578	41,057	38,025	37,137	-888
	高	7,213	6,077	6,201	5,938	6,046	6,715	7,290	7,453	7,106	6,963	6,678	6,563	-115
	計	38,231	33,765	35,392	34,022	34,018	39,946	48,034	55,329	56,727	54,837	51,778	51,907	129
	発生件数 /千人	2.8	2.5	2.7	2.6	2.6	3.1	3.7	4.2	4.3	4.6	4.2	4.2	0.0

(2) 暴力行為の区分(公立のみ)

区分		13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	前年比増減
対教師暴力	小	2	0	0	4	0	3	0	0	2	1	0	6	6
	中	32	21	20	29	23	15	5	13	11	26	18	19	1
	高	6	2	2	8	5	6	5	4	8	3	0	0	0
	計	40	23	22	41	28	24	10	17	21	30	18	25	7
生徒間暴力	小	2	2	1	5	3	2	1	3	4	10	9	23	14
	中	73	53	56	77	55	45	37	41	78	65	64	47	-17
	高	23	28	17	21	22	41	28	33	26	40	36	39	3
	計	98	83	74	103	80	88	66	77	108	115	109	109	0
対人暴力	小	0	0	0	0	1	2	1	0	1	1	1	1	0
	中	13	4	8	7	4	8	4	4	13	8	3	3	0
	高	2	1	3	6	0	1	1	0	3	3	2	4	2
	計	15	5	11	13	5	11	6	4	17	12	6	8	2
器物損壊	小	0	1	3	4	0	6	4	0	6	1	1	7	6
	中	56	40	67	29	15	13	19	32	21	16	21	9	-12
	高	27	9	11	28	11	13	16	22	24	22	18	21	3
	計	83	50	81	61	26	32	39	54	51	39	40	37	-3

- (注) ・対教師暴力(教師の胸ぐらをつかむ、ケガをさせるなどの行為)  
 ・生徒間暴力(生徒同士がけんかし一方がケガを負う、一方的に暴行を加えるなどの行為)  
 ・対人暴力(通りかかった他校の生徒や通行人等面識のない相手に暴行を加えたなどの行為)  
 ・器物損壊(修繕を要する落書き、施設の破損などの行為)

2 いじめ

(1) 鳥取県のいじめの認知件数の推移

いじめ		13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	前年比増減
鳥取県 公立のみ	小	5	7	13	10	4	35	31	19	11	13	21	131	110
	中	52	30	57	35	30	74	35	38	25	35	29	144	115
	高	6	3	20	12	6	17	26	5	7	5	21	17	-4
	特	0	0	0	0	0	0	3	2	10	2	2	10	8
	計	63	40	90	57	40	126	95	64	53	55	73	302	229
	発生件数 /千人	0.8	0.5	1.3	0.8	0.6	1.8	1.8	1.0	1.2	1.0	1.2	5.0	3.8
全国 公立のみ	小	6,206	5,659	6,051	5,551	5,087	60,380	48,526	40,545	34,494	35,603	32,705	116,258	83,553
	中	16,635	14,562	15,159	13,915	12,794	49,443	42,122	35,757	31,162	31,424	29,636	60,931	31,295
	高	2,119	1,906	2,070	2,121	2,191	9,166	6,388	5,043	4,307	5,127	4,648	13,009	8,361
	特	77	78	71	84	71	371	334	307	256	342	333	805	472
	計	25,037	22,205	23,351	21,671	20,143	119,360	97,370	81,652	70,219	72,496	67,322	191,003	123,681
	発生件数 /千人	1.8	1.6	1.7	1.6	1.5	8.7	7.1	6.0	5.1	5.5	5.0	14.3	9.3

(注) H17年度までは発生件数、H18以降は認知件数 ※H18年度より全国の発生件数/千人は国私立、中等教育学校を含む値

(2) いじめの態様

区分	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	計
冷やかしかからかい、悪口や脅し文句等	99	98	8	4	209
仲間はずれ、集団による無視	28	16	2	0	46
軽く叩かれたり、蹴られたりする	38	28	6	2	74
ひどく叩かれたり、蹴られたりする	10	3	2	1	16
金品をたかられる	2	5	1	0	8
金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする	10	9	0	1	20
いやなこと恥ずかしいこと、危険なことをされたりさせられたりする	16	11	3	0	30
パソコンや携帯電話で誹謗中傷やいやなことをされる	0	8	0	0	8
その他	4	5	1	4	14
計	207	183	23	12	425

(注) 複数回答可

(3) いじめの解消状況

	いじめが解消しているもの	一定の解消が図られたが、継続支援中	解消に向けて取組中	他校への転学、退学等	計
小	121	10	0	0	131
中	127	13	0	4	144
高	15	2	0	0	17
特	9	1	0	0	10
計	272	26	0	4	302

# 不登校児童生徒数の推移(H6~H24)

(1) 鳥取県の不登校児童生徒数の推移(国、公、私立)

小中学校課

(人)

	平6	平7	平8	平9	平10	平11	平12	平13	平14	平15	平16	平17	平18	平19	平20	平21	平22	平23	平24
小学校	111	107	125	157	159	160	143	160	170	127	122	124	128	146	132	117	109	109	119
中学校	339	408	470	641	784	779	590	572	575	535	542	502	459	458	432	490	526	477	379

〈参考:全国の不登校児童生徒総数〉(国、公、私立)

	平6	平7	平8	平9	平10	平11	平12	平13	平14	平15	平16	平17	平18	平19	平20	平21	平22	平23	平24
小学校	15,786	16,569	19,498	20,765	26,017	26,047	26,373	26,511	25,869	24,077	23,318	22,709	23,825	23,927	22,652	22,327	22,463	22,622	21,243
中学校	61,663	65,022	74,853	84,701	101,675	104,180	107,913	112,211	105,383	102,149	100,040	99,578	103,069	105,328	104,153	100,105	97,428	94,836	91,446

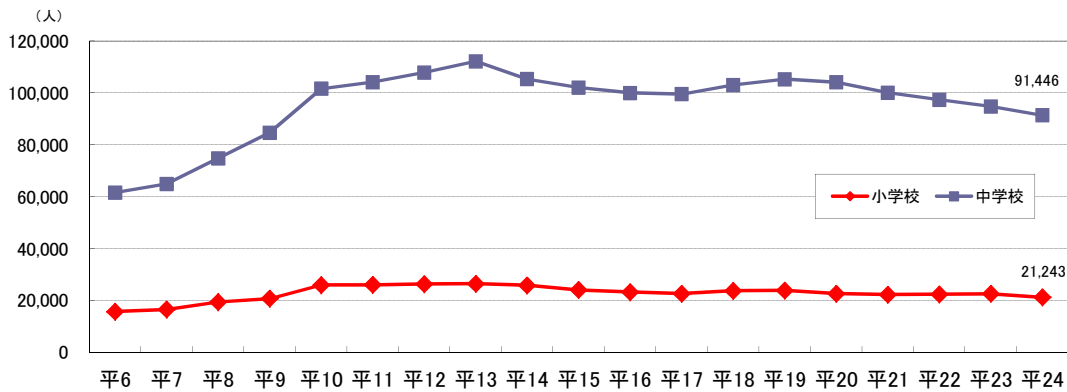
(2) 不登校児童生徒の占める割合の推移(100人あたり)(国、公、私立)

(%)

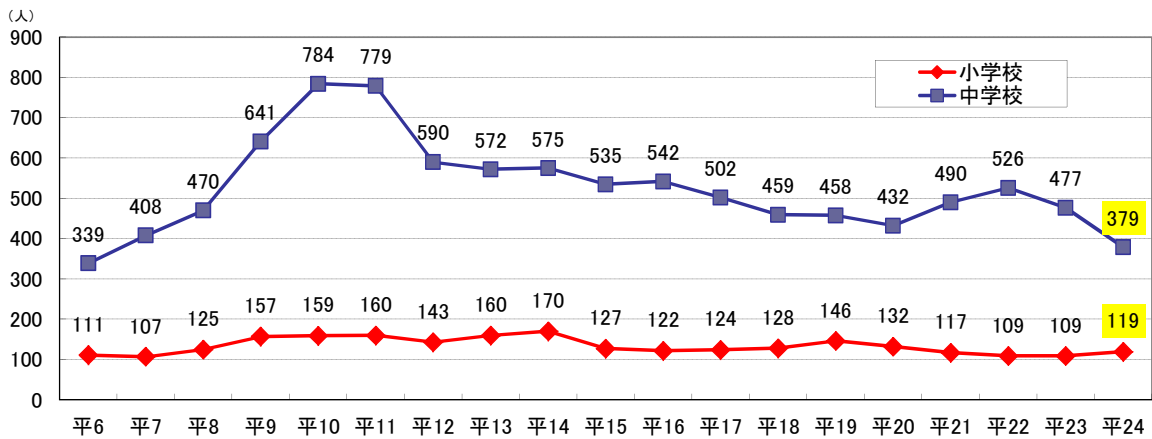
小学校	平6	平7	平8	平9	平10	平11	平12	平13	平14	平15	平16	平17	平18	平19	平20	平21	平22	平23	平24
鳥取県	0.24	0.24	0.29	0.38	0.39	0.40	0.37	0.42	0.46	0.35	0.35	0.36	0.38	0.43	0.40	0.36	0.33	0.34	0.37
全国	0.18	0.20	0.24	0.26	0.34	0.35	0.36	0.36	0.36	0.33	0.32	0.32	0.33	0.34	0.32	0.32	0.32	0.33	0.31

中学校	平6	平7	平8	平9	平10	平11	平12	平13	平14	平15	平16	平17	平18	平19	平20	平21	平22	平23	平24
鳥取県	1.36	1.66	1.92	2.70	3.28	3.37	2.65	2.65	2.79	2.66	2.79	2.65	2.51	2.53	2.46	2.83	3.14	2.87	2.31
全国	1.32	1.42	1.65	1.89	2.32	2.45	2.63	2.81	2.73	2.73	2.73	2.75	2.86	2.91	2.89	2.77	2.73	2.64	2.56

全国の不登校児童生徒数の推移



鳥取県の不登校児童生徒数の推移



平成24年度不登校児童生徒数及び前年度から不登校の状態が継続している児童生徒数

区分	在籍児童生徒総数	不登校児童生徒数																		(7)計		
		学年別内訳																				
		(1)1年			(2)2年			(3)3年			(4)4年			(5)5年			(6)6年			男	女	計
小学校	31,297	3	0	3	2	4	6	10	6	16	8	6	14	15	17	32	19	28	47	57	61	A 118
※	—	—	—	—	0	0	0	1	1	2	4	1	5	7	10	17	8	10	18	20	22	C 42
中学校	15,656	46	36	82	72	68	140	76	72	148	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
※	—	15	17	32	42	33	75	61	54	115	—	—	—	—	—	—	—	—	—	118	104	D 222
合計	46,953	49	36	85	74	72	146	86	78	164	8	6	14	15	17	32	19	28	47	251	237	488
※の合計	—	15	17	32	42	33	75	62	55	117	4	1	5	7	10	17	8	10	18	138	126	264

※の欄は、前年度から不登校の状態(30日以上)が継続している児童生徒の人数を、平成24年度の不登校児童生徒数の内数として表したものを。

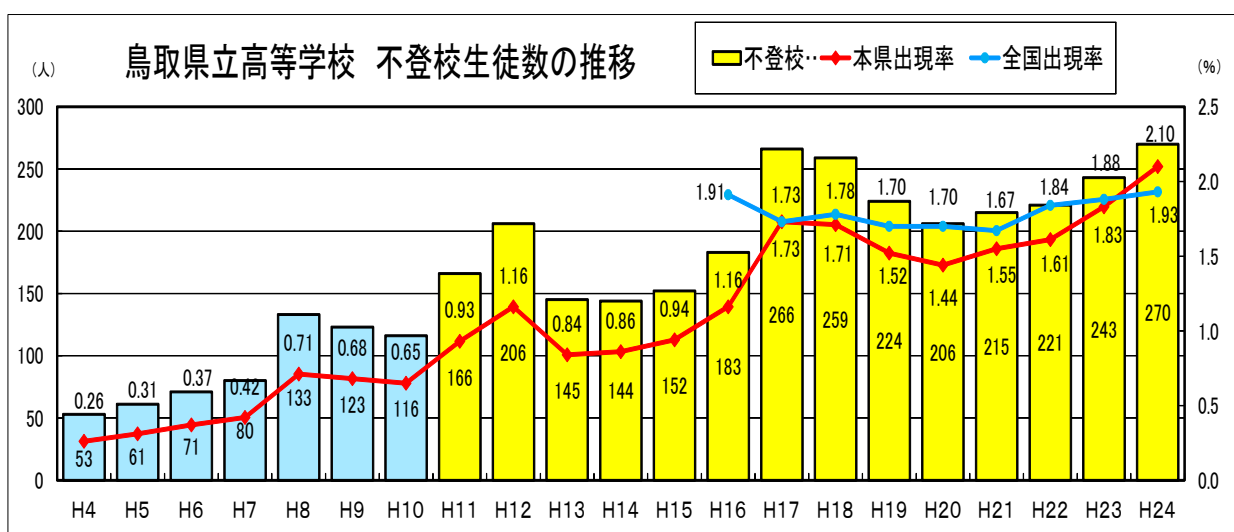
# 平成24年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」について

平成25年12月20日  
高等学校課

## 1 高校（公立のみ）の不登校生徒数

- 不登校生徒数は270人と、前年度（243人）より27人の増加。
- 本県出現率は2.10と、前年度（1.83）より0.27ポイント増加し、全国出現率の1.93を上回る。

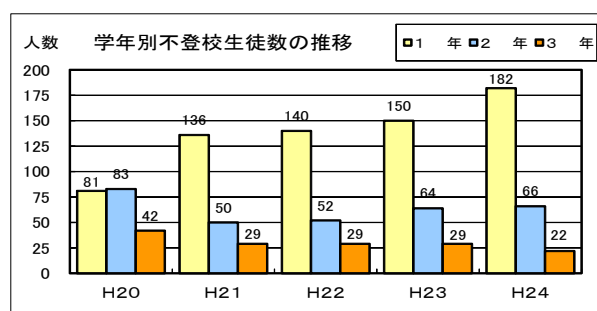
### (1) 不登校生徒数の推移



(注) 不登校を理由とする欠席日数の集計方法について  
平成10年度までは年間50日以上、11年度以降は30日以上の欠席を対象としている。

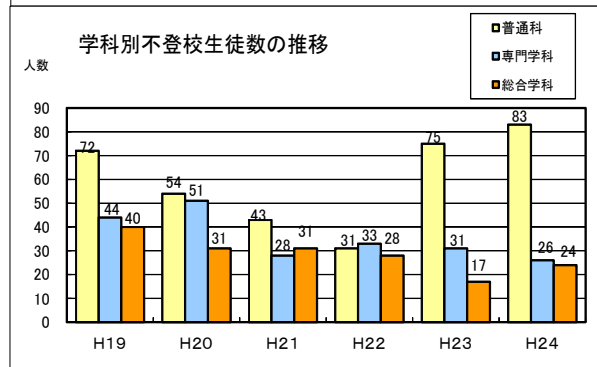
### (2) 学年別状況

- 前年度に引き続き不登校生徒に占める1年生の割合が高い(67.4%)。
- 2、3年生の不登校生徒数はほぼ横ばい。



### (3) 全日制における学科別状況

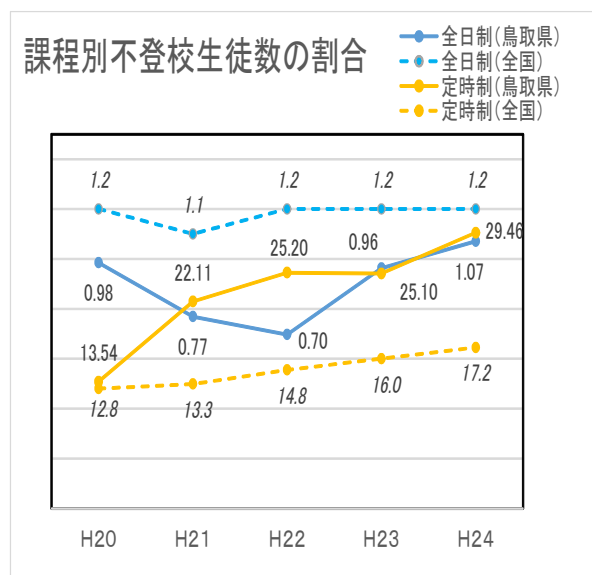
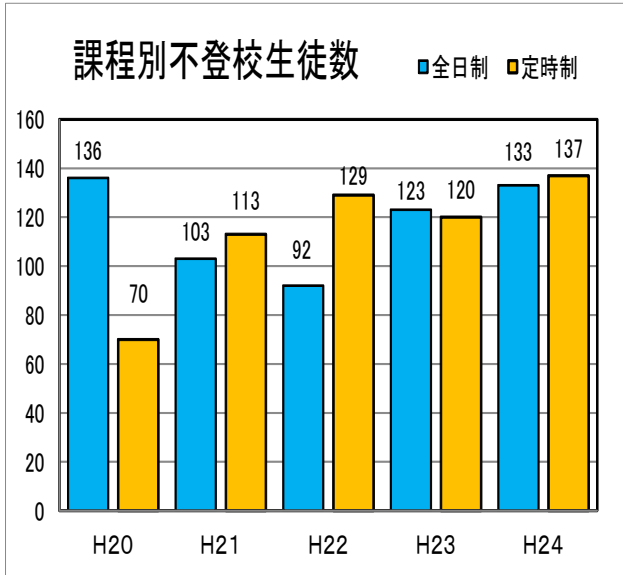
- 普通科、総合学科で不登校生徒数が増加。
- 前年度に引き続き普通科における不登校生徒の割合が高い(62.4%)。





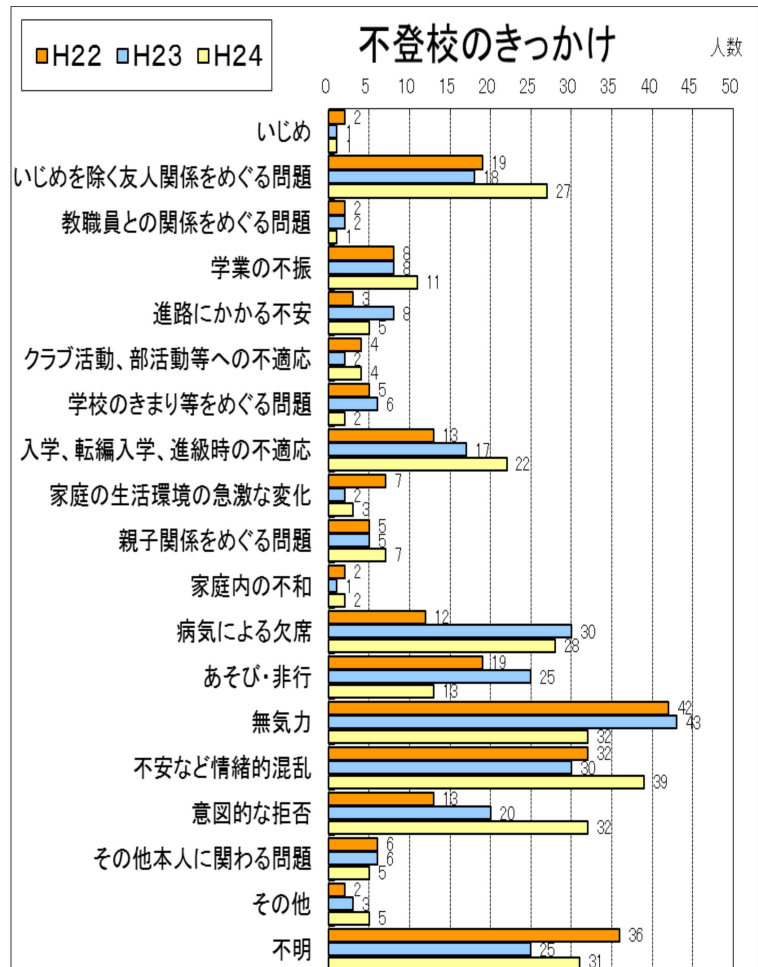
#### (4) 課程別状況

- 全日制、定時制ともに増加。全日制は2年連続増加。
- 全日制における出現率は、全国を下回っている。
- 定時制における出現率は、平成21年度から全国の出現率より10ポイント程度高い。



#### (5) 不登校のきっかけについて

- 本人の問題に起因する不登校が55.2%。
- いじめを除く友人関係をめぐる問題に起因する不登校は、平成21年度より減少傾向であったが増加した。
- 不安など情緒的混乱に起因する不登校が最も多い。また、病気による欠席も前年度に続き10%を越えている。
- あそび・非行、無気力に起因する不登校は減少した。



## (6) 分析

- 前年度と比較して、全日制課程、定時制課程とも増加。
  - ・全日制課程は、0.96%→1.07%
  - ・定時制課程は、25.10%→29.46%
- 1年生の不登校生徒（182名）の出現率が高い。
  - ・全体に占める割合は67.4%。
- 本人に関わる問題がきっかけで不登校となる生徒がやや減少したものの、依然として半数以上（55.2%）。
  - ・入学後の新しい環境や人間関係に適応できない生徒、不安など情緒的混乱に起因する生徒の増加が考えられる。
  - ・あそび、非行、無気力は減少。

## (7) 25年度における高等学校課の取組

- スクールカウンセラー、教育相談員、スクールソーシャルワーカーの配置
  - ・臨床心理士の資格を有する教育相談員3人を各教育局に配置。15校で教育相談活動を実施。
  - ・スクールカウンセラー（教育相談員）による教育相談活動を全県立高校24校で実施。本年度より相談時間を週4時間から週6時間に増。
  - ・スクールソーシャルワーカーを鳥取緑風高校、米子白鳳高校の2校に拠点校方式で配置。
- hyper-QUの全校実施
  - ・不登校、中途退学及びいじめ防止の対策としてのhyper-QUを全県立高校で年2回実施。
  - ・hyper-QU活用のための教員研修会を実施。

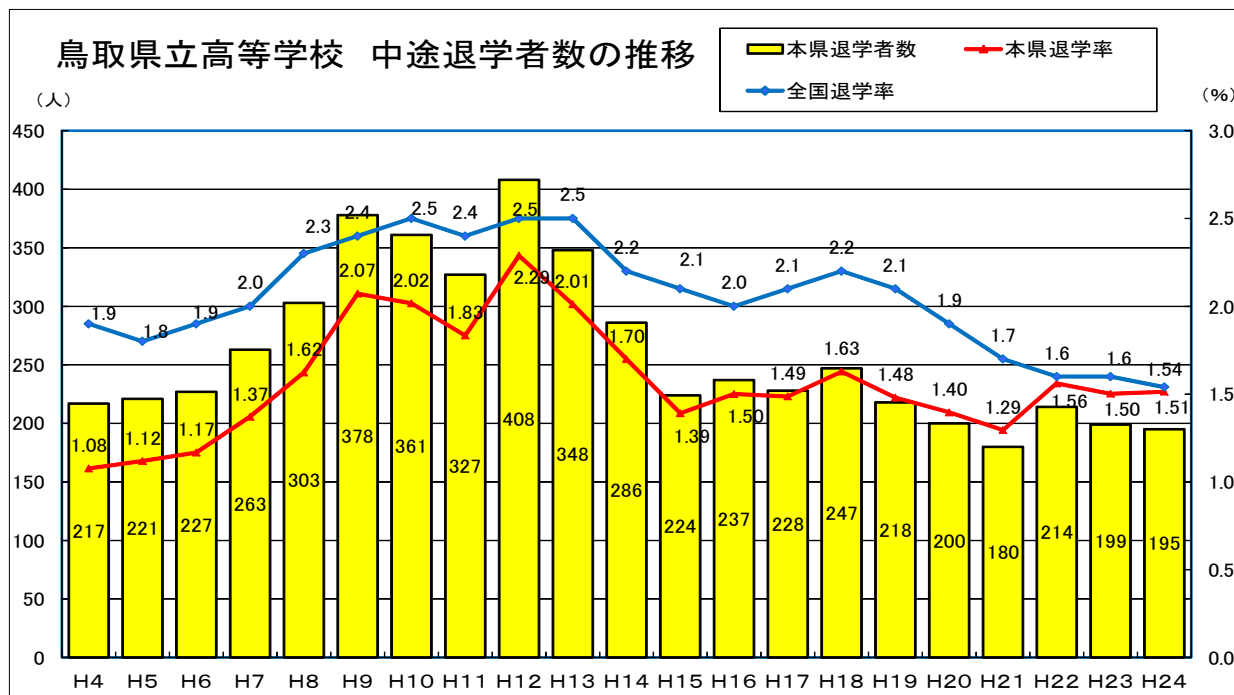
## (8) 今後の不登校防止策

- 教育相談員やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと連携し、コミュニケーションスキルや対人関係スキルなどのソーシャルスキルを身につけさせるためのトレーニングを実施して、社会性・人間関係構築能力を育成し、入学当初の新しい環境への適応を促す。
- hyper-QU検査等を用いてクラス全体の状況や生徒個々の状況を客観的に分析することで、学校不適応から不登校に至る可能性が高い生徒を見出し、タイミングのよい面談やカウンセリングによる支援につなげる。
- 特別な支援を要する生徒が不登校に陥るケースもあることから、保護者、担任、特別支援教育担当教員、教育相談担当教員、スクールカウンセラー等の協働により組織的に対応し支援する。
- LD等専門員、専門機関などの外部機関の指導・助言を得て、全教職員が発達障がいのある生徒に対する基礎的・基本的な知識や支援のスキル等を共有し支援にあたる。
- 生徒が目標を持って学校生活を送ることができるよう、各学校の実態に応じたキャリア教育をとおして、生徒に自らの生き方・在り方を考えさせる指導を充実する。

## 2 高校（公立のみ）の中途退学者数

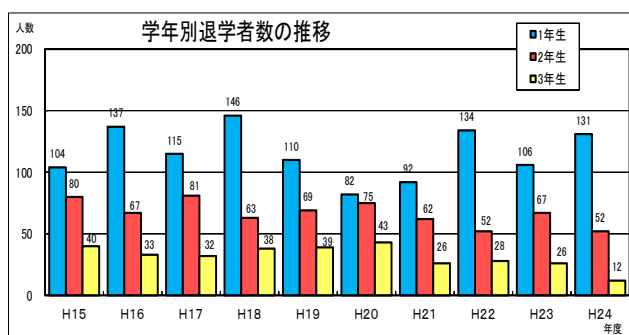
- 中途退学者数は195人と、前年度（199人）より4人の減少。
- 本県退学率は1.51と、前年度（1.50）とほぼ同じ。全国退学率の1.54より若干低い。

### (1) 退学者数の推移



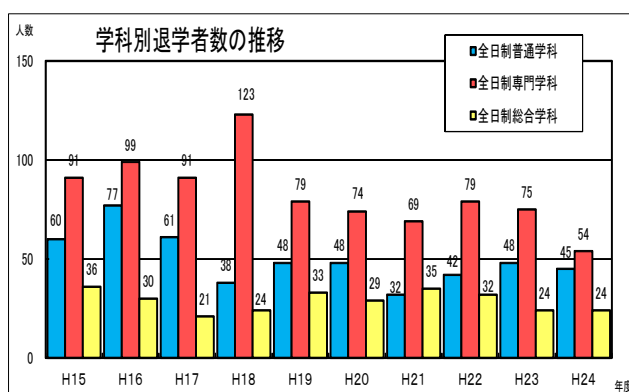
### (2) 学年別状況

- 1年生の退学者数が増加。
- 2年生、3年生は減少した。



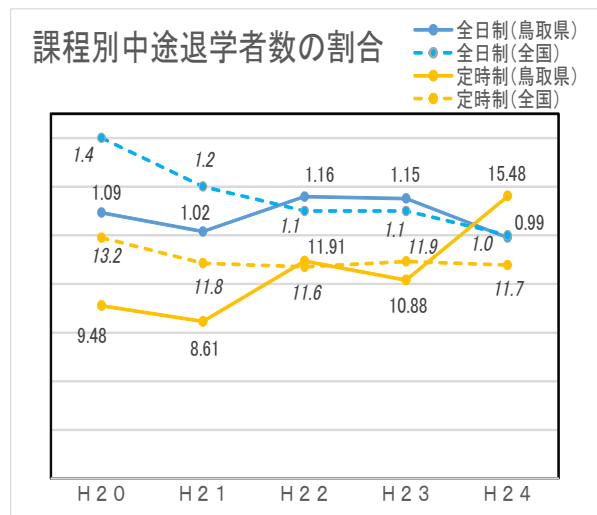
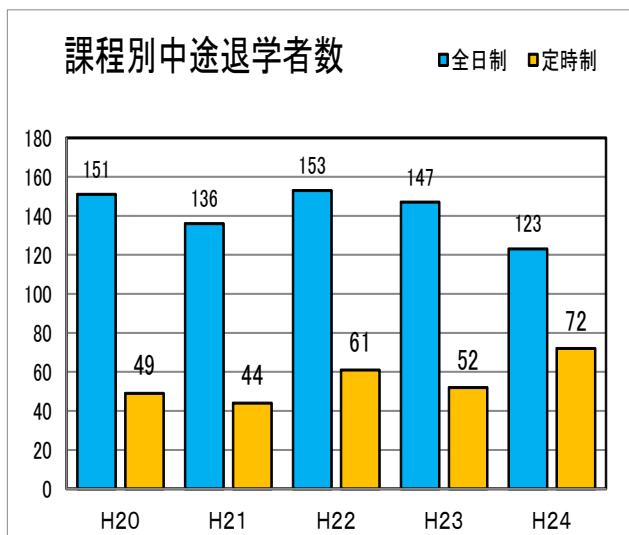
### (3) 全日制における学科別状況

- 専門学科の退学者数が減少。
- 普通学科、総合学科の退学者数は前年度とほぼ同じである。



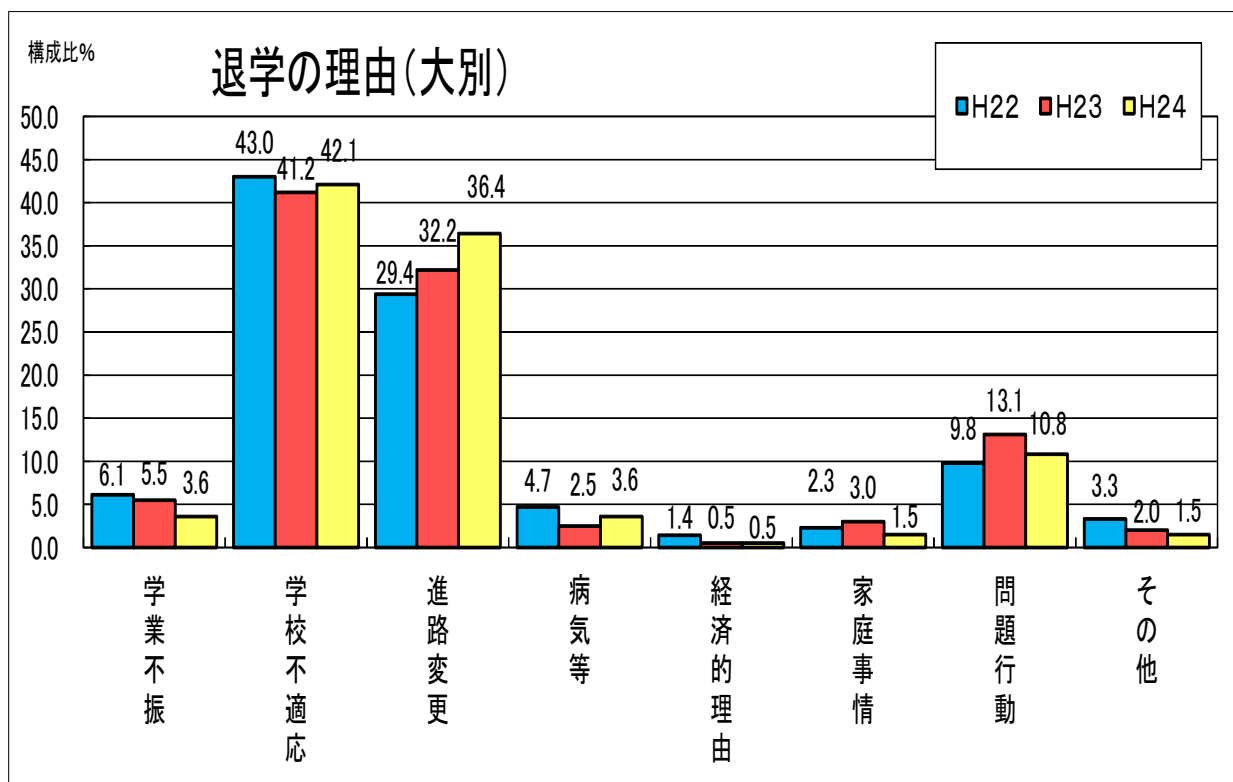
#### (4) 課程別状況

- 全日制課程における中途退学者の割合は0.99%と、前年度(1.15%)より減少。
- 定時制課程における中途退学者の割合は15.48%と、前年度(10.88%)より5.4ポイント程度増加。全国の割合より4ポイント程度高い。



#### (5) 退学の理由について

- 学校生活・学業不適應による退学者の割合が42.1%と、最も高い。その中でも、人間関係がうまく保てずに退学した生徒が21人と、前年度(13人)から増加。
- 授業に興味がないとして退学した生徒が21人と、前年度37人から大きく減少。



## (6) 分析

- 前年度と比較して、全日制課程は減少、定時制課程は増加。
  - ・全日制課程は、147人→123人（割合としては10ポイント減少）。
  - ・定時制課程は、52人→72人（割合としては10ポイント増加）。また、ここ5年で最も割合が高い。
- 1年生の退学者は131人と、全体の67.2%を占める。
  - ・学習習慣や学習意欲を身につけないまま入学している。
  - ・専門教科への不適應により学業不振に陥った。
  - ・学科の内容を十分に理解しないまま入学し、ミスマッチなどの要因が考えられる。
- 学校生活・学業不適應による退学が多い。
  - ・人間関係がうまく保てない生徒の増加。
  - ・不本意入学により高校生活に熱意がもてなくなった生徒が多い。
  - ・授業に興味がわかずに退学した生徒が5年ぶりに減少した。

## (7) 25年度における高等学校課の取組

- 定通教育充実事業
  - ・定時制、通信制に在籍する生徒に対して、集団生活体験及びコミュニケーション能力の育成、生活体験及び社会体験活動の充実、基礎学力の充実を図る。

## (8) 中途退学の防止策について

- 従来の取組の充実・強化
  - ・生徒が意欲的に学校生活を送るための取組
    - 分かる授業を行い、生徒が学習意欲を高め、主体的にかかわる授業を創造するための教科指導力の向上を図る。
    - 学校内外において、生徒の活躍の場（部活動、生徒会活動、地域貢献活動等）を確保し、生徒の自己有用性や自尊感情を醸成する
    - キャリア教育を充実させ、自らの生き方に対する自覚を促し、進路意識の高揚を図る。
  - ・問題行動防止のための取組
    - 生徒指導ガイドラインに則した適切な生徒指導を行い、基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成を図る。
    - 保護者の理解や協力のもと、担任、生徒指導主事、教育相談担当教員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の協働により組織的に対応し支援する。
- 中学校との連携を強化
  - ・高等学校における学習内容や学校生活に関する情報を中学生・保護者へ積極的に提供する。
  - ・中学生を対象とする高等学校の体験入学や授業参観等を積極的に活用し、中学校における進路指導の充実を図る。
  - ・中学校教員の高等学校での学習内容や進路状況等の理解促進を図るため、中学校教員を対象とする説明会等を開催し、積極的な参加を要請する。